

「藤里町の外国語教育」～小学校外国語活動の実践を通して～

藤里町立藤里小学校 教諭 庄司 俊哉

1. はじめに

藤里町では、藤里小学校と藤里中学校を再編し、令和5年度に義務教育学校として開校する。それに向けて、町独自の教育として外国語教育とふるさと教育を掲げ、平成30年度より小中一貫教育推進委員会を立ち上げ取り組んできた。

外国語教育においては、平成30年度より小学校新学習指導要領の内容を先行実施し、小学校低学年の外国語活動（年10時間程度）にも取り組んできた。町教委では、小・中学校における外国語教育を補完する取組として、令和2年度から町営英語塾を開設している。講師となる国際交流員（CIR）を民間の会社に委託し、英検等の指導とともに、幼稚園児との交流や小・中学校の授業にも派遣し、外国語教育の環境整備に努めてきた。藤里小学校では、すべての学年での外国語教育を英語専科とALTまたはCIRのティーム・ティーチングで行っている。令和3年度からは中学校英語教員を小中兼任として、小学校5、6年生の指導は、中学校英語教員が行ってきた。

義務教育学校の外国語教育として、9年間の系統的な指導を行うことを基本方針としている。具体的には、①9年間の専科教員による指導、②音声から文字の指導への円滑な接続、③前期・後期課程のギャップの少ない授業時数、④英語塾と英検受検補助事業である。もう一方の柱である町独自のふるさと教育と連携させ、将来藤里町を支え、英語で藤里町を発信できる人材を育てることを目標としている。

令和2年度より、藤里小学校は、秋田県英語教育改善プラン推進事業 拠点校・協力校英語授業改善事業の拠点校として研究

を進めてきた。令和3年度は「同じステージに立たせ、他者とのつながりを通してステップアップさせる指導方法の工夫」の研究主題のもと実践を重ねてきた。本稿では、外国語活動の実践を中心に紹介することとする。

2. 小学校3年生での実践

令和3年11月19日に公開授業研究会を行った。この日は、第3学年のUnit6「ALPHABET」の4時間目を扱った。本単元は、「聞くこと」ウと「話すこと[やり取り]」アを関連する領域別目標とした。アルファベットの文字を題材とする初めての単元ということもあり、児童がアルファベットの文字に親しみをもつとともに、興味をもって学習に取り組むことができるように、頭文字をテーマにした学習活動の展開を考えた。そのため、本時のねらいを「頭文字の入ったお誕生日カレンダーを作るために、自分の姓名の頭文字を伝えることができる」とした。

本時では、自分の頭文字を伝える「My initials are ○○.」という表現への慣れ親しみをねらい、友だちから自分の頭文字のアルファベットカードをもらう活動を設定した。本時のねらいには、「やり取りをする」という視点もあり、お互いの頭文字を尋ね合う必要性があることにも気付かせ、その際に使える表現がないかを考えさせた。児童からは「Whatが使えるんじゃないか」という考えが出され、尋ね合う活動へとつなげていった。外国語の時間は、その単元で学ぶターゲットセンテンスのみの学習でなく、いかに今まで慣れ親しんだ表現を使って伝え合うかということが大事であ

ると考えているので、普段からできるだけこのような学習の展開を心がけている。教師や友だちとのやり取りを通してお誕生日カレンダーを仕上げる事ができた。

3. 小学校4年生での実践

令和3年7月9日には、第4学年で授業研究会を行った。この日は、Unit 3「I like Mondays.」の4時間目を行った。本単元は「聞くこと」アと「話すこと[やり取り]」イを関連する領域別目標として扱っている。本題材は、児童にとって身近な「曜日」である。児童の日常生活と曜日を関連付けながら、伝え合うことの必要性をもたせるとともに、基本的な表現に慣れ親しませたいと考え、授業を構想した。

本時のゴールを「友だちと好きな曜日をたずねたり答えたりしよう」と設定し、活動をした。児童は、ペアになって「I like ○○. Do you like ○○?」「Yes, I do. / No, I don't.」というやり取りをしていた。更に活動を発展させたいと考え、どのようなやり取りをしたいか児童に考えさせたところ「もっと会話をつなげたい」とか「Do you like～? から始まる話し方だと、YesかNoしかない」という意見が出され、「What」を使った尋ね方ができないかという結論に至った。児童は過去の学びの中から「What～ do you like?」という表現を導き出し、その後のやり取りにつなげることができていた。

本時の学習を通して、児童にはそれまでに学習した表現を使えば、やり取りの幅がより広がっていくということを実感させることができた。

4. 授業構想の際に気を付けていること

(1) 児童を同じステージに立たせる

外国語には「難しそう」というイメージ

が強い。そこで、「見通しのもてる安心感ある授業づくり」を心がけている。授業は「導入部」「展開部」「終末部」の3部構成を心がけている。「導入部」はゴールの設定と自身の経験を結び付ける場、「展開部」は外国語を使ってやり取りをしたり、他者との関わりによって学びを広げたり深めたりする場、「終末部」は学びを振り返り、次につなげる場としている。

また、ゴールの設定をするときも、教師側から一方的に与えるのではなく、「このUnitでどんなことができるようになりたいか」を児童に問うことで、児童の意見を取り入れながら設定している。自分たちで考えたゴールに向かうために、どのような活動をしていったら良いかを考えながら学習に取り組むことができ、主体的な学習者を育成することにつながっている。

(2) 英語発話量の充実

授業において英語発話量の充実を図るためCIRとのSmall Talkを全学級で実施している。導入は必ずGreetings, Day, Date, Weatherについて児童とやり取りをすることから始めている。初めのうちは、何を言っているのか分からない児童も、CIRやJTEがジェスチャー等で表現することを通して、何を言っているかを理解するようになってきている。

児童が英語に慣れ親しみ、たくさん話すことができるようにするためには、英語を聞く機会の確保が大事だと考えている。そこで、JTEも不慣れではあるがオールイングリッシュの授業を心がけるようにしている。その際も、難しい表現を使って指示を出しても児童には伝わらないので、伝わることを最優先に考えている。

授業を効果的に進めるためには、CIRとの打ち合わせも重要である。そのため、毎

時間略案を作成し、CIRと、その時間のねらいは何かということと、児童に合った指示の出し方等について打ち合わせをしながら、授業に臨んでいる。CIRとのTTで常に心がけていることは、授業のコーディネーターはJTEが行うということである。児童一人一人に合った指導の仕方、表現の在り方、本時のねらいに沿った学習活動の展開を組み立てているのはJTEなので、CIRに任せきりにしないことが大切である。

5. まとめ

最後に、2年間の実践を通しての成果と課題を挙げる。

[成果]

(1) 英語好きの児童の増加

ゴールの設定を児童と一緒にすることで、見通しをもった学習を展開させることができた。また、自分たちの意見が反映されたゴールの姿に向かって学習を進めるなど、主体的に学習に取り組もうとする児童の姿が多く見られるようになった。

(2) 表現の広がりや深まり

児童が書いた学習の振り返りや、既習事項をフィードバックさせる時間を意図的に取り入れたところ、今まで慣れ親しんできた表現を積極的に取り入れて、一語一語のやり取りではなく、一文以上のやり取りを楽しむ姿が見られるようになった。

(3) 英語に慣れ親しむ児童

教師が、間違っても英語で指示を出したり、使ったりする姿勢を見せることで、間違えることを恐れることなく、とにかく使ってみよう意識する児童が多くなった。また、低学年時から、CIRの英語に触れることで、児童の耳が育ち、英語に対するリスニング力も高まっている。

[課題]

(1) ついつい使ってしまう日本語

ゴールにたどり着くためには、活動になげないといけないという意識が強くなりがちで、指示が伝わるかどうか不安に駆られるときは、どうしても日本語を使って指示を出してしまいがちになる。児童が外国語に触れる時間は、外国語の時間しかないという意識をもって、オールイングリッシュの授業を心がけたい。

(2) 正しさよりも、やり取りの楽しさ

児童のやり取りの様子から、間違いを訂正したり、正しい言い方の練習をしたりすることが多かったが、外国語の基礎的・基本的力の捉え方が間違っていたと感じた。習った表現を正しく使うことが小学校の外国語活動で求められているのではなく、英語を使って楽しんでやり取りすることを念頭に置いた指導を心がけていきたい。

(3) 学習状況の見取りの難しさ

児童の発話量を確保した学習の展開を考えたときに、一人一人を見取れないことも度々あった。児童の活動の様子を後で見取ることができるようにICT機器等の活用も考えられるので、どのようにすればより確かに児童の活動を見取ることができるのか検証を重ねていきたい。また学習計画を立てる際に「記録に残す評価」「指導に生かす評価」とその評価場面を意識していきたい。

第3学年 外国語活動学習指導案

期 日 令和3年11月19日

授業者 庄司 俊哉(JTE)

Brandon Robert Barker(CIR)

1 単元名 Unit 6 ALPHABET アルファベットとなかよし

2 単元の目標

- ・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。 【知識及び技能】
- ・誕生日カレンダーを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら自分の姓名の頭文字を伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・誕生日カレンダーを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら自分の姓名の頭文字を伝えようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元と児童

(1) 単元について

本単元では、「聞くことウ」と「話すこと[やり取り]ア」を関連する領域別目標として扱う。アルファベットの文字を題材とする初めての単元であり、大文字とその読み方に慣れ親しむことが目標となっている。

児童は国語科でローマ字を学習している。また、身の回りの様々なものにもアルファベットが使われており、それらも日常的に目にしている。しかし、文字には大文字と小文字があることは分かっているもそれらを識別したり、それらがどのような音をもった文字なのかを認識したりすることができている児童は多くない。

単元は4時間構成としている。前半2時間は、ゲーム的な活動を通してアルファベットの読み方と文字を一致させる時間を設定する。その後、形に注目させながら文字への認識を深め、必要なアルファベットを選んでそれを基にしたやり取りの時間を設定する。本単元は高学年の外国語科(2)「読むこと」ア「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音できるようにする」ことにつながり、文字学習へのスタートとなる重要な意味をもつ単元である。そのため、個人差には十分配慮し、どの児童も楽しく文字に親しむことができ、興味が高まるように、自分や友達の頭文字を題材にした活動を設定していきたい。

(2) 児童について(男10名 女6名 計16名)

児童は、外国語を使ったゲームや、リズムにのったチャンツ、英語で歌うなどの活動を楽しんで行っている。普段の外国語活動の導入では、Warm upとして簡単な挨拶、日、曜日、天気を話題にやり取りしている。何度も繰り返している表現に対して元気に受け答えできる児童が多い。普段の授業でも、間違いを気にせずJTEやCIRの問いかけに答えたり、基本の表現を使ってやり取りをしたりすることができている。しかし、少し時間が経ってから一人一人に既習の表現を使った質問をすると、うまく答えられなかったり、質問を聞き取れていなかったりという様子が見られたことから、慣れ親しみという点で不足していると感じている。

学級には特別な支援を要する児童も在籍している。本児童は、友達とのやり取りを好んで行う様子が見られるので、友達と関わりながら学ぶことができる場と活動を設定することで、単なる知識の伝達とならないように配慮していく。

(3) 指導にあたって

小中共通で設定した研究の重点1の「同じステージに立たせる手立ての工夫」に関する取組として、児童と共にゴールの姿を設定することから始める。身の回りには頭文字で表されるものが多いことや、それらはアルファベットの大文字を使っていることなどを伝えた後で「アルファベットの学習を通してどんなことができるようになりたいか」と問いかけ、学びへの必要感につなげていきたい。また、クラスルームイングリッシュをできるだけ活用し、多くの英語表現に触れさせることで、英語へ慣れ親しむことができるような指導を心がける。重点2の「学びを広げ深める手立ての工夫」では、自分の必要とするアルファベットを選び、友達とそれぞれが選んだアルファベットを伝え合う時間を設定する。そのため、児童が必要とするであろう言語材料を予測し、言語活動の中に取り入れられるようにする。

本時は、頭文字を伝え合いながら全員の頭文字が入った誕生日カレンダーを作成することを目標としている。自分の名前前の頭文字を表すアルファベットが記されたカードのやり取りを通して、自分の必要とするアルファベットへの文字認識を確かなものにする。その後、友達に頭文字を尋ねる表現を考え、それを使ってやり取りをしていく。このような活動を通して、アルファベットに慣れ親しみ、「アルファベットをたくさん知りたい」という気持ちをもたせていきたい。

4 指導と評価の計画 (全4時間 本時4 / 4)

学習内容	時数	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身の回りにはアルファベットの大文字で表されているものがあることに気付くとともに、活字体の大文字の読み方を知る。 ・聞くことウ	1	[知識] 身の回りにはアルファベットの大文字で表されているものがあることに気付いている。	↓	↓
活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。 ・聞くことウ	1			
活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。 ・聞くことウ	1	活字体の大文字の読み方を聞いたり言ったりして文字と一致させている。		
相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝え合う。 ・話すこと[やり取り]ア	1 (本時)		誕生日カレンダーを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝え合っている。	誕生日カレンダーを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝え合おうとしている。

5 本時の学習

(1) ねらい

頭文字の入った誕生日カレンダーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝え合う。

【思考力、判断力、表現力等】「話すこと[やり取り]ア」

(2) 学習過程(本時 4 / 4)

過程	学習活動	時間	指導の手立てと評価	
			JTE	CIR
導入 展開	1 Greeting & warm up (全体) Hello. How are you? How's the weather? What day is it? What's the date?	2	・安心して学習に取り組むことができるように、展開や Unit Goal の提示をする。	・楽しい雰囲気ではじめられるように、児童とコミュニケーションを図りながら挨拶をする。
	2 Check the Goal (全体) 見通す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">友だちとイニシャルを伝え合って、おたん生日カレンダーを作ろう。</div>	4	・活動への意欲を高めるように、児童の言葉を生かしながらゴールの設定をする。	・児童の学びが揃うように、活動を促す声かけをする。
	3 Let's Sing "ABC song" (全体)	2	・全員の活動を促すために声をかけたり、電子黒板を操作したりする。	・英語の語感を意識できるように、一緒に歌う。
	4 Activity 1 (全体) 友だちから自分の頭文字を表すアルファベットカードをもらう。 つなぐ ・ The "○"card, please. → Here you are./ No, Sorry. → Thank you. My initials are ○ and ○.	8	・活動の概要をつかむことができるように、JTE と CIR でデモンストレーションを示す。 ・次の活動につなげる	・児童が正しい発音のために全体の活動の様子を観察する。
	5 Let's Think 頭文字を紹介する方法を考える。(全体) ・「あなたのイニシャルは何？」って聞きたい。 → What を使えばどうだろう。 ・答えるときは英語で何て言えば良いのかな。	7	・活動を発展させるために、Unit Goal を確認し、友達の頭文字を知る必要があることに気付かせる。 ・よりよい英語表現につなげるために、初めから正しい表現を教えず、児童に伝え方を考えるよう話す。	・児童が正しい発音に気付くことができるように児童と一緒に活動する。
	6 Activity 2 (ペア→全体) 深める 誕生日カレンダーを仕上げる。 --- おおむね満足できる状況 --- 自分の頭文字を伝え合っている。 What are your initials? →○ and ○. Thank you. など	17	○自分の姓名の頭文字を伝え合っている。 【思考・判断・表現】(観察・表現)	
	7 Reflection (個)	5	・個々の工夫を全体で共有できるように、ペアのやり取りの様子を観察する。 ・頭文字をカレンダーにまとめることで、友達の頭文字のアルファベットにも関心をもつことができるようにする。	・児童の困り感に対応できるように、机間指導をする。 ・未履修ではあるが、月の表現への気付きを促すために、英語で何月生まれかを尋ねる。
終末	7 Reflection (個) ・本時の学びを振り返る。	5	・本時の学びを自らに問い直すことができるように、視点を示す。	・意欲を高めるために、学習に向かう姿勢を認め、称揚する。

第4学年松組 外国語活動学習指導案

期 日 令和3年7月9日

授業者 庄司 俊哉(JTE)

Brandon Robert Barker(CIR)

1 単元名 Unit 3 I like Mondays.

2 単元の目標

- ・世界の同年代の子供たちの生活を知るとともに、曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【知識及び技能】
- ・曜日を話題にした英語に慣れ親しむために、自分の好きな曜日について、尋ねたり答えたりする。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元と児童

(1)単元について

本単元では、「聞くことア」と「話すこと[やり取り]イ」を関連する領域別目標として扱っている。ここでの題材は、児童にとって身近な「曜日」である。児童が曜日を考える際に関わりが深いと感じられる事柄として「学校の時間割」「テレビ番組」「習い事やスポ少活動」などが考えられる。そのような事柄と曜日を結び付けることで、英語を使いながら伝え合う事の必要感と楽しさを味わい、曜日の表現に慣れ親しむことができる単元となっている。

単元は4時間構成としている。前半2時間は、聞くことを中心とした活動を設定する。後半2時間を、「話すこと[やり取り]」で慣れ親しむ時間とし、前半で慣れ親しんだ表現を使って、やり取りを楽しむ活動を設定した。聞いて慣れ親しんだ表現を使うことや、それまでに身に付けた表現を思い出しながら組み合わせることで、自分の使える英語表現が広がっていく楽しさを味わわせたい。

(2)児童について (男7名、女8名、計15名)

児童は、外国語を使ったゲームや、やり取りなどの活動を楽しみにしている。他にも、チャンツなどのリズムに乗った表現が大好きで、楽しみながら話すことができている。普段の授業では、既習の表現を積極的に使って、基本的なやり取りを楽しんだり、自分からCIRに話しかけたりする姿が見られる。しかし、一步踏み込んだやり取りの段階になると、話しづらそうにしている姿も見られる。

外国語活動の導入では、Warm upとして簡単な挨拶、日、曜日、天気を話題にしている。しかし、第4学年の外国語活動は毎週火曜日に固定されていることから、全ての曜日の言い方に慣れ親しんでいる状況とは言えない。

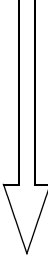
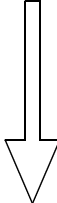
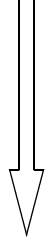
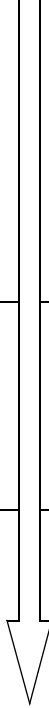
児童は、これまでに自己紹介と好きな遊びについての表現を学んできた。そのような表現を使いながら、積極的にやり取りを楽しもうとする児童に育ててほしいと願っている。

(3)指導にあたって

小中共通で設定した研究の重点1の「同じステージに立たせる手立ての工夫」に関わる取組として、児童と一緒にゴールの姿を定めることから始める。「曜日を英語で話すことでどのようなことができるようになりたいか」と問いかけることで、ゴールの姿を児童と共に設定し、学ぶことの必要感につなげていきたい。また、英語で学ぶ必要感をもたせるという観点から、普段の授業においても、クラスルームイングリッシュを活用し、できるだけ英語表現に触れさせる指導をしている。重点2の「学びを広げ深める手立ての工夫」に関わる取組として、慣れ親しんだ表現を使いながら自分なりの表現で伝え合う時間を設定する。そのため、児童が必要とするであろう言語材料を予測し、言語活動の中に取り入れられるようにする。

本時はこれまで慣れ親しんできた表現を活用しながら、友だちと「曜日」に関わるやり取りをすることを目標としている。やり取りをより深いものとするためには、理由を尋ねたり答えたりする必要がある。そのような必要性を感じさせながらも、英語でどう言えば伝わるのかについて、まずは児童に考えさせる。その後で正しい表現を指導することで、「伝えるためにどうしたらよいか」に主眼を置いた学び方につながっていくのではないかと考えている。

4 指導と評価の計画 (全4時間 本時4 / 4)

学習内容	時数	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の子どもたちと自分たちの生活の共通点に気付く。 ・聞くことア	1	[知識] 世界の子供たちの生活と自分たちの生活の共通点を聞き取ること慣れ親しんでいる。		
曜日の言い方に慣れ親しむ。 ・聞くことア	2		曜日の言い方を理解し、正しく聞き分けている。	
好きな曜日の尋ね方と伝え方を知る。 ・話すこと[やり取り]イ	3	[技能] 自分の好きな曜日について基本の表現を使いながら、伝えることに慣れ親しんでいる。		
相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合う。 ・話すこと[やり取り]イ	4 (本時)		曜日を話題にした英語に慣れ親しむために、自分の好きな曜日に、自分の考えを入れながらやり取りしている。	相手の話を受けて、質問したり、自分の好きな曜日を相手に分かりやすく伝えたりしようとしている。

5 本時の学習

(1)ねらい

- ・ 曜日を話題にした英語に慣れ親しむために、自分の好きな曜日に、自分の考えを入れながらやり取りすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】「話すこと[やり取り]イ」

(2)学習過程(本時 4 / 4)

過程	学習活動	時間	指導の手立てと評価	
			JTE	CIR
導入	<p>1 Greeting & warm up Hello. How are you? How's the weather? What day is it? What's the date?</p>	5	・安心して学習に取り組むことができるように、展開や Unit Goal の提示をする。	・楽しい雰囲気を始められるように、児童とコミュニケーションを図りながら挨拶をする。
展開	<p>2 Check the Goal 見通す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">友だちと好きな曜日をたずねたり答えたりしよう。</div>	2	・活動への意欲を高めるように、児童の言葉を生かしながらゴールの設定をする。	・児童の学びが揃うように、活動を促す声かけをする。
	<p>3 Let's Chant "What day is it?"</p>	3	・全員の活動を促すために声をかけたり、電子黒板を操作したりする。	・英語の語感を意識できるように、リズムに乗った話し方を例示する。
	<p>4 Activity 1 友だちにインタビューしながら、自分と好きな曜日が同じ人を探す。 つなぐ</p> <p>・ I like ○○. Do you like ○○? → Yes I do. / No I don't.</p>	10	・活動の概要をつかむことができるように、JTE と CIR でデモンストレーションを示す。 ・次の活動につなげるために全体の活動の様子を観察する。	・児童が正しい発音のために気付くことができるように児童と一緒に活動する。
	<p>5 よりよい表現について考える。 ・ どうして好きか理由を聞きたいね。 ・ 理由をたずねるときは何て言えばいいかな。 ・ その日にある好きなことは何て言えばいいかな。 ・ 日本語だと「何曜日好き？」から入るけど、英語で何て言えばいいのかな。</p>	7	・活動を発展させるために、Unit Goal を確認し、会話として必要な事柄を考えさせる。 ・よりよい英語表現につなげるために、初めから正しい表現を教えず、児童に伝え方を考えるよう話す。	・JTE の合図を受けて、児童に正しい表現を伝える。
	<p>6 Activity 2 ペアで好きな曜日とその理由について尋ね合う。 深める</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>--- おおむね満足できる状況 --- 既習の表現を使って、自分の好きな曜日やその理由をやり取りしている。 What day do you like? → I like ○○. Why? → I play baseball on ○○.</p> </div>	13	<p>○曜日を話題にした英語に慣れ親しむために、自分の好きな曜日に、自分の考えを入れながらやり取りしている。 【思考・判断・表現】(観察・表現)</p>	
終末	<p>7 本時の学びを振り返る。</p>	5	・本時の学びを自らに問い直すことができるように、視点を示す。	・英語で伝えようとする意欲を高めるために、間違いであつても挑戦しようとする姿勢を認め、称揚する。

